

環境学委員会 環境思想・環境教育分科会
環境教育の思想的アプローチ検討小委員会（第25期・第5回）
議事要旨

日時：2023年1月6日（金）13:00～16:00

会場：オンライン会議

参加者（敬称略・五十音順）：清野未恵子，黒田一雄，重藤さわ子，高田知紀，豊田光世

オブザーバー：井上真理子，工藤由貴子，関礼子，日置光久，氷見山幸夫

欠席：蟹江憲史，永井三枝子，二宮咲子，野田真里

*委員9名中5名の出席により会議は成立した。

議題：

1. 重藤委員の報告

重藤委員より、「SDGs や脱炭素から考える企業経営と人材育成」というテーマで報告があった。企業経営から SDGs をみた場合に、事業機会だけに注目が集まりがちであるが、バリューチェーン全体で考えることの重要性を示した。また、現在の日本の社会においては、特定の事業領域から社会変革を実現しようとした場合に、制度疲労と縦割りが大きな障壁となる。

意見交換では、SDGs を統合的に捉えながら縦割りの障壁を克服するための考え方と方法について議論した。一つの考え方として「特区」を設定し、そのなかで既存の制度的制約を越えた実践を展開する方法がある。その場合、大都市よりもむしろ、農村や中山間地などのエリアにおいて可能性を見出すことができる。

2. 黒田委員の報告

黒田委員より「教育のグローバルガバナンスの歴史的展開と SDG 第4目標」というテーマで報告が行われた。MDGs から ESD, SDGs へと至る教育のグローバルガバナンスの経緯について詳細なレポートと問題提起があった。

意見交換では特に、グローバルとローカルの問題をいかに共存させながら、教育プログラムや教育現場のガバナンスを展開していくかが議論となった。また、ある能力を獲得する前の段階として、感じる力、情動を育成するプロセスの重要性についても議論がなされた。

3. 今後の活動

本小委員会を含む環境思想・環境教育分科会全体のとりまとめにあたるシンポジウムのテーマ・キーワードについて意見交換を行った。

シンポジウムは、2023年5月中の土日に開催することとした。日程は後日調整する。

以上